

灯



先日、ナイチンゲール生誕祭なる行事を行った。日田地域で唯一看護師の養成をしているのが昭和学園ならではの催しであるが、ご承知の通りナイチンゲールは看護制度の生みの親といわれ、誕生日である五月十二日は看護の日とされている。

この行事ではまず各学年の代表から看護に対する思いを発表してもらったのだが、一年生と五年生では当たり前であるがこれほど成長するのか、といつも感心させられる。

続いて毎年現場で働く看護師の方々を招いて記念講演をしてもらっているのだが、今年も済生会日田病院で看護師長をして

いる角井めぐみさんという方を招いた。

角井さんは昭和学園の卒業生でもあるので、生徒にとっては大先輩である。

角井さんはまず自らが昭和学園の卒業生であった思い出から

ナイチンゲール生誕祭



草野 義輔

認めていくケアがあるべき看護の姿ということに気づいたところである。

彼女はそのためにはさらに自己研さんが必要と考え、職場の理解を得て、東京でのWOC看護師認定看護師の資格取得にチャレンジし見事にその資格を獲得した。

WOC看護認定看護師は九州でも少なく、大分県では角井さんを含めまた三人しかいない高度なレベルの看護師ということである。

語り始め、看護師となって三年目、自分の一大転機となった患者との出会いにふれ、自らの看護の仕事のやり方に対する大いなる疑問に突き当たったこと。そして患者のための看護とは何かを考えた結果、患者の人格を

自らの目標をより高いところに置き、患者のための看護とは何かを追求する素晴らしいお手本がすぐ身近にいて、直接話を聞いた生徒たちは幸せ者だ、と心底誇りに思った。

(日田市昭和学園高校理事長)